

平成 27 年度 学校評価結果

学校法人 歩学園

認定こども園 歩学園幼稚園

平成 27 年度から「子ども・子育て支援新制度」のもと、0 歳児から 5 歳児までの教育・保育を行う「幼保連携型認定こども園 歩学園幼稚園」となりました。

■ 1 教育目標と行動指針

知育 発達段階に応じたカリキュラムで「考える力」を養う

0 才から 5 才まで、数の認識、物理的認識、言葉の認識や論理的思考能力等、長年の研究と心理学の父といわれた J.ピアジェ博士が、数多くの子どもたちに実験して体系化した認識論をベースにした発達プログラムをカリキュラムに取り入れています。子どもたちが好奇心を持って、自発的に活動する環境が大切で、遊びながら創意工夫することによって新たな発見をして、また、次のことにチャレンジするといった好循環が「考える力」すなわち創造性や論理性を養うのです。幼稚園の発達プログラムは将来を大きく左右します。興味が湧き、今より少し困難な環境を整えることが肝要ですが、発達段階を理解していないと、あまりにも簡単なことや反対に難しすぎる課題を与えてしまい、子どもの探究心を削いでしまうのです。また、できる子、できない子、答えが正しい、間違い等という観点からではなく、一人ひとりの子どもの発想と自分で考えることを大切に、「今より一歩」を目標に、子どもの可能性を引き出す環境を整えています。

徳育 色々なグループ活動で「人間力」を養う

同年齢間や異年齢間での様々なグループ活動から、「思いやり」「たくましさ」「協調性」「奉仕の精神」を養います。子どもは子ども同士で、楽しんだり、時にはけんかしたりして、いつも自分の主張が通らないことを感じたりしながら社会性を身につけていきます。月に1度のおたのしみ会（全学年で行う縦割り保育）なかよし会（クラスの枠を取り学年ごとで行う保育）、ふれあい会（ふれあいを大切にしたい縦割り保育）、また、お泊まり保育や音楽劇発表会（年長児）や運動会の行事を通じて、様々なグループ活動でリーダーの経験をしたり、困った友達を助けたり、いろいろな経験を積み重ねながら喜怒哀楽を適度に経験することが大切です。また、人前ではっきり自分の考えや意見を言ったり、友達の意見をよく聞いたりする人間関係の基本を学びます。

体育 体系的な体育プログラムで「体力」を養う

近年、日本全体で子どもの体力が低下して、深刻な問題となっています。一昔前では考えられなかった体育の家庭教師等も現実のものとなりつつあります。また、転んでも手がつけず顔を打つ子どもや、暑い、寒いと泣く子どもが現れたり、体の硬い子どもも増える傾向にあります。そこで、本学園では、このような傾向に歯止めをかけ、昔の子どものような体力を取り戻そうと、行事等の特別な場合を除き、保育開始前 20 分程度マラソンや柔軟体操を行い子どもたちの体力づくりを行います。幼児期は部分的な筋力を鍛えたり、過度な運動をさ

せるのではなく、転倒による怪我等の減少効果もあります。また、跳び箱、マット運動、鉄棒、縄跳び、サッカー、ドッジボール、プール等色々な経験をさせることも大切です。

各学年の発達に合わせ、体育がんばり表でチャレンジする喜びを感じながら、卒園時には、全員が跳び箱5段を跳べ、逆上がりができることを目標にしています。

食育

調理の過程を観察したり、スーパーでしか見たことのない野菜を園内の菜園で育て、収穫し食べることにより感謝の気持ちを育てます。また、今まで知らなかった野菜の成長過程を知り、いろいろな発見につなげていくことを目標にします。

■ 2 達成及び取り組み状況と今後の課題

子どもが興味や好奇心を抱き、自発的に環境に働きかけ、環境からの新たな刺激に対して試行錯誤しながら適応して、また環境に働きかけるといった好循環が本質的に重要な知能を伸ばす行為だと、確信を持って幼稚園教育を行ってきました。また、「今より一歩」、「やればできる」の精神で耐性を鍛えることが、生き抜く力の源だと、安易な放任主義は排除してきました。本学園の教育環境の質をさらに向上させるとともに、保育園の安全、衛生管理などの質の高いところを取り入れ、0才～5、6才の連続した教育環境を整えてまいりました。また、27年度より教職員の人数が前年比200%を超え、経験による能力差の懸念もあったが、補助教員や講師によるサポート体制を充実させたことにより補うことができた。

28年度も、一人ひとりが、歩学園幼稚園の職員である自覚と責任を持ち、認定こども園としての質の向上に努めていく。

■3 学校関係者評価

教育内容

・家で、幼稚園に行く準備だけでなく、行事の準備まで自分で出来るように成長した。補足もしてくれる。子ども一人ひとりのカラーがあり、幼稚園生活の居心地の良さを感じている。

・保育がスタートすると、子どもは急に落ち着き、見ていて成長を感じる。工作の時間、子ども同士で「のりを貸してあげる」助け合う姿があったり、遅れている子どもに手伝ってあげている姿があったり、どの子も優しい子に成長している。

・(年少組)「○○○組はあきらめない！」担任の先生が大切にされている言葉が、子どもたちにもしっかり浸透している。エネルギーに圧倒されるくらい元気で、自分の意見をどんどん発言し、スゴイ！と感じた。

・「やれば出来る！」「今より一歩！」幼稚園での精神が子どもたちにきっちりと伝わっている。見ているだけで、保護者にも伝わってきて、嬉しい。子ども同士も、人との垣根を作ることなく、みんな親しみやすい。

・入園式後、「土曜日でも日曜日でも幼稚園に行きたい」と子どもが言う。幼稚園が大好きでいる。幼稚園の子どもは、みんなニコニコしていて、幸せそう。先生の愛情が一杯で嬉しい。

- ・(年少組) 4月は大人しかったが、以降幼稚園のお話をたくさん家でしてくれるようになった。生活展の時、子どもが「年長組を見に行きたい」というので見に行ったら、作品の出来に圧倒され写真を撮りまくった。今から、年長になることを楽しみにしています。

施設面

- ・平成27年度より新園舎ができたことによって園庭が狭くなるのが心配だったが、調理室ができたことや、新しい遊具でできたことによって、子どもが喜ぶ姿が増えたように思う。

その他

- ・お母さん先生を体験した際、子どもたちから私に歩み寄って来てくれて、お礼の言葉をかけてくれた。一人ひとりがハグをしてくれて、親しみが増した。子どもを、歩学園幼稚園に入園させ、幸せな3年間でした。

- ・どこの幼稚園に入園するかを迷って決めたが、歩幼稚園を選んで本当に良かった。

■4 財務状況

公認会計士により、適正に運営されていると認められている。